

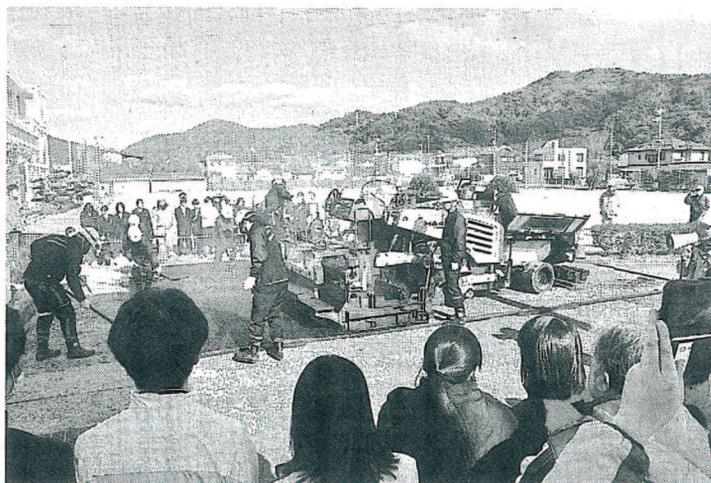
富海小中学校で見学会

舗装の重要性と仕事の流れ学ぶ

大林道路

地域の未来を支える子どもたちに建設業界への興味を持ってもらい、将来の仕事について考えてもらうべく、大林道路は9日、防府市立富海小中学校で「未来をつくる」建設のおしごと体験・見学会」を開催した。

同社は、中国地方整備局山口河川国道事務所発注の「令和7年度富海拡幅富海地区外第1舗装工事」を施工しており、現場近くの富海小中学校の児童や生徒に建設業を身近



に感じてもらうい、現場体験の楽しさや社会の仕組みを学ぶ機会を提供することを目的に開催した。

中学生の部では、山口河川国道事務所の山村尚美建設監督官から「交通混雑の緩和や交通事故削減、地域経済活性化を目的に周南市戸田から防府市富海までの3・6km間で現道拡幅（4車線化）工事を行っている」と富海拡幅の概要や建設監督官の仕事内容について話した。

大林道路山口営業所の宮崎耀平氏は「富海拡幅工事の現場では、工事を管理する立場で携わっている。いろいろな仕事があり、それがつながって社会は回っている。将来の選択肢は、今思っているよりも広いことを学んでもらえれば」と述べた。続けて、「道路には、まちづくりや防災、交通、空

間機能がある。新しい道路ができることで店や住宅が増え、人や物の流れをつくり、地下にはライフレインを通す空間もある」など道路の役割や機能のほか舗装工事の一連の流れを説明した。

その後駐車場に移動

し、宮崎氏から「コンバインドローラーだけではきれいにできないので、先がT字状のレーキ（トンボ）を使って整形する職人をレーキマン、そのレーキマンにアスファルトを届けたり除けたりアシストするのがスコップマン、整形したアスファルトを押し固める小型の転圧機（プレートコンパクター）を操るのがプレートマンで、それぞれが役割分担して滞りなく作業できるチームをつくっている。この現場は8人で作業しており、舗装工事には最低限必要な人数。ここでは、水が浸透する機能を持つ合材を約10t使っている」などと解説を受けながら、駐車場進入路で雨天時に水たまりができる部分約96㎡

を舗装する工事を見学した。ダンプロトラックが工場から運んだアスファルト合材を、アスファルトフィニッシャが受け取って均一に敷き均し、ローラーで転圧・締固めなどを行うようすが披露された。

最後に生徒代表が「道路ができる過程を間近で見ることができ、建設の仕事がとても身近に感じられた。私たちの生活を支える仕事の大切さ、未来をつくる仕事の魅力を強く感じた」などとお礼と感想を述べ、見学会を終えた。

なお、午前中には小学生を対象とした見学会も催された。舗装工事の現場で使うアスファルトフィニッシャ、コンバインドローラー、バックホウへの試乗、1人で測量などができる測量機器（杭ナビ）を使ってグラウンドに埋められたものを探し出すお宝探しが行われた。また、創立90周年を記念して発行した大林道路の仕事がわかる絵本などを学校に贈った。